令和４年度　奈良県立郡山高等学校　学校評価総括表

【高等学校用】

年度	令和４年度（中期計画１年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	長い伝統の中で培われた文武両道の精神を基礎に、社会に有為な人材を育成します。
年度重点目標	本校教育実践の蓄積を生かしつつ、新しい時代に生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指します。 (1) 生徒の学習が活性化し、積極的に学びに向かうよう、ＩＣＴ等を活用し、授業改善を進めます。 (2) 自ら課題を見つけ考え、他者に伝える力を身につけ協働していくため、探究的取組を積極的に進めます。 (3) 将来への希望を育み、その実現に向かうエネルギーを培います。また、変化する入試などの情報を的確に把握し、進路実現につなげます。 (4) 部活動、学校行事、地域協働等をとおして、豊かな人間性の獲得と人格の涵養に努めます。

１　スクール・ポリシーの内容

教育方針（スクール・ポリシー）	入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）	本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 １　集団の中において自らの役割を理解し、自ら考え積極的に貢献しようとする生徒 ２　基礎的学力を身につけた上で、課題を解決できる力を伸ばそうとする意欲のある生徒 ３　部活動や学校行事などに参加し、自らの人間力を高めようとする生徒 ４　自他尊重の精神を持ち、人を大切にする意識が高い生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	本校では、新しい時代を切り開く資質・能力を育成するために、確かな知識理解力や思考力を身につけ自ら考えることのできる確かな学力と豊かな心情や健やかな身体を育成することを目指し、以下の方針を示します。 １　「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」をバランスよく培い、進路実現につなげることに注力する。 ２　新しく構築した総合的な探究の時間を軸に、各教科にわたり応用力を磨く。 ３　学校行事や地域活動への参加を活発にし、集団としての行動力やコミュニケーション力を身に付ける。 ４　部活動を通して人間力を高める活動を大切にする。
	育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）	本校では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。 １　卒業後も向上心を絶やすことなく、自ら学び続けることができる。 ２　自分を大切にし、人を思いやり、集団の構成員としての役割を果たそうとする心情を確固とする。 ３　新しい時代を切り開こうとする気概を持ち、有為な人材として社会に積極的に参加しようとする意思を持つ。

２　奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和４年度末の目標値等（C）	令和４年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価（F）	改　善　方　策
１．こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	基本的生活習慣の確認	挨拶自己達成率９０％以上	挨拶自己達成率８５％以上	自ら挨拶を心掛けている生徒は82%である。	昨年度の87%より5ポイント低下している。校内や、部活動・授業で我々の指導が届いていない実態が見えてきている。	挨拶をしない生徒が増えている。日々の指導が大切。	校舎内、授業時に挨拶をする習慣が薄れており、教員の側から積極的に声掛けをする事を意識していかないといけないと考える。
	部活動の充実	１・２年生３学期の加入率９０％以上かつ入部者の満足度80%以上	１・２年生３学期の加入率９０％以上	加入率は1年生94%、２年生89%、所属する部活動に満足と答えた生徒は各学年87%であった。	各部活動顧問の先生方の努力で「文武両道」という本校の伝統が引き継がれている。	アンケートでの高い数値は評価できる。	活動環境のさらなる整備を進める。
	学校行事に関わる意欲向上	実態調査で「意欲的に取り組めた」とする生徒80%以上	諸行事の実施（コロナ禍前の水準で）と生徒意欲の喚起	球技大会以外の諸行事は（コロナ禍前の水準に近づけて）実施、生徒実態調査で89%が意欲的に取り組めたと答えた。	コロナ禍の制限が残る中で工夫し行事を実施することができ、生徒は現状を理解し楽しんだ。	良好である。	諸行事のコロナ禍前の実施水準を知る生徒がいなくなった。記録保存を確実に行う。
	基礎体力の向上	体力テスト２，３年平均Tスコア５０以上	体力テスト２，３年平均Tスコア５０以上	全体を見るとTスコアは５０を超えているが、瞬発・筋持久力系の種目は高く、握力等の筋力系が低い傾向にあると思われる。	５０m走や持久走では、学年を追うごとにスコアが顕著に上がっており、日ごろの部活動を含めた体育活動の成果が表れていると思われる。	良好である。	積極的に運動に取り組む姿勢をはぐくむ環境づくりや、運動や健康に関心を持つような啓発活動を継続して行っていくことが大切であると思われる。
	読書意欲の向上	生徒実態調査、ビブリオバトル後アンケートで関心の高まり75%以上	生徒実態調査、ビブリオバトル後アンケートで関心の高まり73%以上	図書だより「共慶」で読みたい本があった生徒が49.6%、ビブリオバトルで読みたい本・興味を持った本があった生徒が95.5%、全体で72.6%であった。	ビブリオバトルでは、大部分の生徒で読書への関心が高まったが、「共慶」では、半数に満たない。「共慶」の改善が課題である。	ビブリオバトルはよい取り組みである。今後探究的な活動として生かしてほしい。	「共慶」の内容を工夫し、発行回数も増やす。また、新たな情報発信を検討する。
	基本的生活習慣の確立	美化活動への積極性を育む。実態調査で、「清掃にすすんで取り組んでいる」と答えた生徒の割合が、55%以上	美化活動への積極性を育む。実態調査で、「清掃にすすんで取り組んでいる」と答えた生徒の割合が、50%以上	「すすんで取り組んだ」と「概ね取り組んだ」の計は96.6%だが、「すすんで」のみは43.3%。	目標達成まで、あと少しの努力と工夫が必要。汚い箇所があれば積極的に改善する姿勢を育むようにしたい。	良好である。	事後点検ではOKでも、巡視すると不十分なこともある。もっと真剣にきっちりと清掃するよう生徒も教師も一丸となる必要がある。
２．学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	学習意欲の向上	授業アンケート質問項目「学ぶことへの意欲が高まる」回答スコア３．０以上	授業アンケート質問項目「学ぶことへの意欲が高まる。」回答スコア３．０以上	アンケート結果では平均3.37で、当初の目標を上回った。また、別で実施した「生徒実態調査」では、家庭学習における意欲の向上が課題として挙がった。	授業に対する評価は良好で、目標を達成できた。現状をふまえた目標値の設定を検討するとともに、家庭学習における学習意欲について、より意識していく必要がある。	今後さらに意欲を高めていくためには様々な経験をさせる必要がある。	学習意欲の高まる授業展開に継続して努めるとともに、家庭学習で扱う内容のねらいを整理・明確化し、精選を目指す。
		それぞれの進路行事についてアンケート満足度９０％以上を目標とする。	大学説明会（３年対象）、学部学科説明会（２年対象）、オープンキャンパス参加（１年対象）を実施し、進路に関する意識の向上を図る。それぞれアンケート満足度８５％以上を目標とする。	２年生については満足度は８３％、３年生は85%であった。また１年生については全員が何らかの形で大学について調べることができた。	１年生と３年生については当初の目標を達成できたが、２年生においてはさらなる工夫が必要である。	良好である。	常に将来への目標についてモチベーションを高められるよう、特に２年生への指導について、入試情報の提供も踏まえ、進路について考えさせる指導を推進する。
	探究的取組に向けての授業改善	授業アンケート質問項目「生徒の主体的な活動ができる。」回答スコア３．０以上	授業アンケート質問項目「生徒の主体的な活動ができる。」回答スコア３．０以上	アンケート結果では平均3.37で、当初の目標を上回った。	良好な結果で、目標を達成できた。現状をふまえた目標値の設定を検討したい。	良好である。	生徒の主体的な活動に関して教員が具体的に手応えを感じることのできた取組について、教科や全体で共有する。
	ICTを活用した教育活動	ＩＣＴ機器を活用した授業を５０％以上実施している教員　全教員	ＩＣＴ機器を活用した授業を実施している教員　全教員	アンケート結果では、ＩＣＴ機器を活用した授業を実施している教員の割合は、オンライン配信を含むと80%、除くと72.7%であった。	目標は達成できなかった。電子黒板が整備された１年生の授業担当かどうかで結果に有意差が生じており、今後の環境整備とともに数値の上昇が見込まれる。	授業に有効なツールとしてさらに活用してほしい。	使用を阻む原因を調査するとともに、使用するメリットの共有を図る。
	進学率の向上	現役生徒の大学進学率９０％以上を目標とする。	現役生徒の大学進学率を８０％以上を目標とする。	４年制大学への進学率は国公立大学へは約31%、私立大学へは約37%であった。	入試改革や社会情勢の変化に伴い安定志向がうかがえる。よって若干私立大学への進学が増加した。	現役合格できなかった生徒へのさらなる指導をのぞむ。先を見越した指導をお願いする。	国公立大への進学率は約31%と例年とほぼ同じである。早期から基礎学力を付け、その上で思考力や判断力を培い、最後まで妥協することなく目標に向かわせる指導が一層必要である。
	探究活動資料の充実	探究活動資料の図書館での利用度が前年度比増	探究活動資料の分類・整備	國分奨学会に申請した本が届き次第、分類・整備を完了させる予定である。	予定通り、取り組めている。	良好である。	来年度、生徒の研究テーマが決定後、それらに対応した資料の整備を行い、提示する。
３．働く意欲と働く力をはぐくむ	キャリア教育の充実	アンケート満足度９５％以上を目標とする。	本校卒業生を中心に様々な業種の方々より職業観等について講演していただき、アンケートにおいて満足度が８５％以上を目指す。	１年生対象のキャリア教育行事への満足度は79.1%であった。また、インターンシップ参加率は1.8%であった。	当初の満足度には達しなかったが、多くの生徒が満足したことで一定の成果があった。	良好である。	外部講師を招く場合、設備等の面で限界がある。できれば参加型の内容も交える方向で検討したい。
	アカデミックインターンシップへの参加	参加生徒数の前年度比増	参加生徒数の前年度比増	教員養成塾への参加率は１%で、昨年度の0.7%を上回った。	教員養成塾については昨年度より参加率が増加した。大学等での探究活動は不十分であった。	良好である。	大学での探究活動は主に理系が多く、理型クラスを中心に、大学からの案内を通して自主的に知的好奇心を満たすよう働きかける。
４．地域と協働して活躍する人を育てる	「奈良タイム」の効果的活用	プレゼンテーション後のアンケート 満足度７０％以上	プレゼンテーション後のアンケート 満足度７０％以上	学年末実施のアンケート結果では、奈良ＴＩＭＥの活動を通じて新たな発見や学びがあったと回答した生徒の割合は84.6%であった。	事前の調べ学習やフィールドワークに意欲的に取り組む姿が見られた。今年度は最後にプレゼンテーションを実施できなかった。	良好である。	他の学習活動との兼ね合いも考慮しながら、実現可能でより効果の見込める年間計画の策定に努める。
	地域行事への参加	参加行事数及び参加生徒数の前年度比増	コロナ禍前に参加していた行事が復活すればクラブ活動・家庭クラブ・環境整備部と連携し参加する。	クリーンキャンペーン、親子まつり学生サポーター等、復活した地域行事に意欲を持って参加した。	地域とのつながりを実感できる行事に参加でき、生徒の感想からも充実感がうかがえた。	良好である。	既存行事への参加を継続し、新規のイベントへの参加も積極的に検討する。
	学校運営協議会の効果的運営	学校運営協議会の開催　年２回以上	学校運営協議会の開催　年2回以上	2/24に第２回を開催。年２回の開催ができた。	たまたまコロナ感染が落ち着いている時期に当たったこともあり、今年度の目標は達成することができた。	委員が授業を見学する機会を設けてほしい。	随時、学校の様子を報告するなど、さらに協議会の活性化に努めたい。
５．地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	学校と家庭・地域をつなぐ情報発信の向上	情報発信の方法の強化と、発信する内容の充実	情報発信の方法の整備、及び発信する内容の精選	コロナ禍により実施できずにいた育友会事業(文化祭バザー、大学見学会、等)を再開することができた。	活動や事業の再開で、発信内容の充実は徐々に上がった。但し、発信方法の強化については不十分である。	良好である。	コロナ禍前の事業の再開を目指すと共に、Google-WorkspaceやBYODの活用を進めることで情報発信の整備を進める。
	人権教育学習の充実	HRにおける時間数の確保と理解度の向上	各学期2時間以上の人権HR実施 人権HRへの取組・意欲関心度８０％以上	各学期2時間以上の人権HRを実施できた。人権HRに取り組んだ姿勢を自己評価するアンケートで、自己評価4以上の生徒は2年·3年が82.2%、１年が81.3%であった。	人権HRに取り組んだ姿勢の自己評価が5段階で4以上の生徒は、人権HRに取り組む意欲関心度が十分あると考えられるので、目標を達成できたと判断した。	アンケートでの高い数値は評価できる。	次年度は人権HRの内容を更に検討し、生徒がより関心を持ち、主体的に活動できるものに高めていきたい。
	特別な支援や配慮を要する生徒への対応力強化	SCとの連携強化や個別の支援計画などの作成	特別支援教育に関わる研修の実施	８月に特別支援教育に関わる職員研修を実施した。	今年度設定した目標値は概ね達成できた。	さらに対処していく必要がある。つらいと周囲に言える環境をつくることが大切である。	研修内容や持ち方をさらに工夫・検討し、特別な支援や配慮を要する生徒への対応力強化を図りたい。
	グローバルな視点・経験の育成	本校短期留学・エンパワーメントプログラム参加者アンケート満足度85%以上	本校短期留学・エンパワーメントプログラム参加者アンケート満足度85%以上	参加者29名で２年連続のリピーターもいた。発熱者も出す全員全予定を終えることができた。	アンケートでは「非常に満足」86%、「満足」14%で目標を達成できた。参加者は生き生きと取り組めていた。	興味深い取り組みとして評価できる。	プログラムを一過性でなく今後の進路に生かせる取り組みを検討していく必要がある。
	生徒の学習環境を整える	予定されている工事において、生徒学習環境への影響をなるべく少なくし工事が工期どおりに進むよう調整を行う。	講堂天井耐震工事において生徒への影響をなるべく少なくし工事が工期どおり進むよう調整を行う。	9月より工事が始まったが予定どおり進んでいる。生徒への影響は少なくできた。	施工業者との連絡を密におこない、生徒・工事への影響がでることがないよう調整をすることができた。	良好である。	今後も施工業者との連携を密にし、生徒・工事への影響が出ないよう調整をおこなっていく。

３　評価結果の分析、今後の改善方策等

各分掌等が今年度末の具体的目標に向けて努力した点は評価できる。学校関係者からも総じて高い評価を得ている。この評価に安んじることなく、次年度以降、さらに改善に努めていかなければならない。
なお、生徒の学校満足度調査では、「本校に入学してよかった」は、８７．３%であった。